



いつまでも住み慣れた地域で暮らしつづけるために

第1回 地域福祉と域学連携

上野山 裕士

はじめまして。和歌山大学観光学部の上野山です。私の専門は地域福祉という分野で、高齢になっても、障害があっても、認知症になっても… etc、すべての人が住み慣れた地域でいつまでも自分らしく暮らしつづけるにはどうすればよいのかを明らかにするために、地域でのさまざまな調査やアクション・リサーチ（ある課題に対して、その当事者と研究者が協働して解決策を検討、その検証、修正を繰り返しながら課題の解決を目指す研究方法）などの手法を用いて研究しています。具体的にはこれまで、スウェーデンの小地域におけるカフェを拠点としたまちづくり、島根県松江市における公民館単位の小地域福祉活動、和歌山県海草郡紀美野町における住民の自主性と密接なつながりに基づく生活支援体制の構築、などをテーマに研究を行ってきました。

また、観光学部では、地域住民と学生とが協働し、地域が抱える課題の解決策を模索、実践する地域インターンシップ（Local Internship Program; LIP）をはじめとする地域連携（域学連携）を担当しています。観

光と福祉というと、ずいぶんイメージが異なる分野にも思えますが、住民のみなさんをはじめとする地域の主体が、外部からの協力を得ながら地域が抱える課題に取り組み、よりよい地域を目指すという点では、大いに共通する部分があると私自身は考えています。

このコラムでは、まずは私が担当している LIP の取り組み 3 件（「観光資源の活用と特産品開発による地域の活性化（和歌山県有田郡広川町）」、「小学校廃校舎を拠点とした地域づくり（和歌山県海草郡紀美野町）」、「認知症カフェにおける世代間交流と認知症地域支援体制の構築（和歌山県海草郡紀美野町）」）を紹介し、域学連携の意義について述べたいと思います。その後、地域福祉のお話に移行しながら、いつまでも住み慣れた地域で暮らしつづけるために必要なことについて考えていきます。短い期間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

くうえのやま・ゆうじ / 和歌山大学 観光学部
特任助手 / 博士（人間科学）>

第 91 回 わだい浪切サロン

和歌山大学・岸和田市地域連携事業

新学習指導要領で英語教育はどなる？ どうする？

話題提供者 江利川 春雄（和歌山大学教育学部 教授）

日時

2017年4月19日 水 19:00～20:30

場所

岸和田市立浪切ホール 1階 多目的ホール

英語教育の最新の動向と各地の実践を紹介し、平等と協同の原理で子どもたち全員を伸ばす「豊かで楽しい外国語教育」をどう実現するかを共に考えたいと思います。

わだい浪切サロンとは？

毎月第3水曜日（2月と8月を除く）の夜7時、岸和田市立浪切ホールで開催する mini 和歌山大学です。申込み不要、参加費無料。

お問合せ先：和歌山大学岸和田サテライトオフィス 〒596-0014 岸和田市港緑町1-1 浪切ホール2F

TEL & FAX : 072-433-0875

岸和田サテライト 検索